

事業コード	H17-農-継-14		区 分	国庫補助 県単独
事業名	治山事業(地すべり防止事業)		部局課室名	農林水産部 森林整備課
事業種別	補助事業(治山事業)		班 名	治山防災班 (tel) 018-860-1943
路線名等	陣場		担当課長名	佐々木 誠
箇所名	北秋田市阿仁打当字陣場		担当者名	主幹兼班長 浅野 昌成
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	02	施策名	災害に強い県土づくり
	指標コード	04	施策目標(指標)名	保安林整備面積

1. 事業の概要

事業期間	H15 ~ H20 (6年)	総事業費	6.7億円	国庫補助率	50%	
事業規模	集水井 5基、ボーリング工 7,600m、アンカー工 60基、溪間工 1基					
事業の立案に至る背景	平成14年10月に町道打当野倉線が崩壊し町道は片側通行を余儀なくされた。調査結果から地すべりであることが確認され、また、地すべり防止区域内の熊牧場施設に変状があらわれたり、亀裂や湧水が発生した。 観光施設である熊牧場の保全是もとより、地すべりにより一級河川打当川が閉塞された場合、下流域に甚大な被害を及ぼす恐れがあるため、緊急に地すべり防止対策工事を実施するものとする。					
事業目的	下記の保全対象を守るため、地すべり防止対策工事を実施する。 人家 20戸、鉄道 300m、道路 3,150m、田畑 25.2ha、一級河川打当川、熊牧場 平成16年2月3日に地すべり防止区域(A=173.95ha)に指定。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	686,000	666,000	-20,000	調査解析の結果から、集水井3	
	経費内訳	工事費	526,000	497,184	-28,816	基を減とする
		用補費	0	0	0	
		その他	160,000	168,816	8,816	
	財源内訳	国庫補助	343,000	333,000	-10,000	
		県債	308,000	299,000	-9,000	
		その他	0	0	0	
		一般財源	35,000	34,000	-1,000	
	事業内容	集水井 8基 ボーリング工 7,600mほか	集水井 5基 ボーリング工 7,600mほか	集水井 3基減		
事業の進捗状況	平成16年度未投資事業費 116,367千円(17%) ボーリング工 650m、溪間工 1基					
事業推進上の課題	なし					
関連する計画等	なし					
情勢の変化及び長期継続の理由	人家や県道等の保全対象のほか、当該地区は北秋田市の重要な観光拠点となっていることから、対策事業の要請は高い。また、地すべり防止工事の効果判定調査を行いながらの対策工事であるため、事業期間を要している。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	保安林の累積整備面積(ha)				
	指標式	整備面積累計				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	5,180 ha		データ等の出典	保安林整備面積調査	
	実績値 b	6,387 ha				
達成率 b/a	123.3 %		把握の時期	平成17年3月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	なし
	指摘事項への対応
	なし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	地すべり活動が活発化した場合には、保全対象の人家や県道等に影響を及ぼす恐れがあり、地すべり末端の1級河川打当川に土砂が流れ込み閉塞した場合には、下流域に甚大な被害が及ぶことも予想される。また、阿仁地域の重要な観光施設となっている熊牧場の運営にも支障をきたす恐れもあることから本事業は必要である。	16点
緊 急 性	地すべりの発生の誘因は、地下水の上昇が考えられるため、早急に地すべり防止工事を実施し地下水の低下を図る必要がある。	16点
有 効 性	県の「災害に強い県土づくり」実現のため、地すべり防止工事の有効性は高い。 目標安全率1.10に対して平成16年ゼロ国債後の安全率は1.025の予定である。	13点
効 率 性	事業の費用便益比は12.05であり効率性は高い 総費用 647百万円 総便益 7,796百万円 地下水排除工において、集水井やボーリング延長が最短となるよう設計しコスト縮減を図っている。	20点
熟 度	市町村から事業施行申請があり、合意形成は図られている。 観光施設があることから、熊牧場職員・市職員・地域住民を対象に説明会を開催している。 防止施設は、周辺の景観と融合するよう木製部材等を使用するよう検討している。	20点
判 定	ランク () すべての観点において評価点が高く、住民の安全・安心な暮らしを実現する上でも優先度の高い事業箇所であり、継続して実施すべきと考える。	85点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 各観点の評価結果から、事業実施箇所として優先度は高く、事業は継続して実施すべきと考える。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

計画どおりの完成を目指し、事業を実施する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 地すべり防止事業

事業コード(H17-農-継-14)
箇所名 (北秋田市阿仁打当字陣場)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要				
必要性	事業の必要性	社会経済情勢変化による需要変化	増大している 特に変化はない 低下している	5 3 1	3				
	地すべり地形であるか	空中写真等でも明瞭である 部分的に明瞭箇所が確認できる 不明瞭箇所が多すぎる	5 3 1	5					
	事業の進捗状況	進捗率	計画より進捗している 概ね計画どおりである 計画より遅れている					5 3 1	3
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調に推移する 課題はあるが当面進捗に影響がない 課題解決が困難である	5 3 1		5				
	計		20	16					
	緊急性	災害発生の危険度	地すべり兆候	全体的に変状が認められる 部分的に変状が認められる 具体的変状は見られない			10 5 1	10	
		事業の影響	事業未実施の影響	事業効果や効率性、周辺への影響が大 事業効果や効率性、周辺への影響が小	5 1	5			
		他事業との関連	他事業との関連	他事業が関連し、緊急性が高い 今後他事業計画があり緊急性はある 他事業計画は未定である	5 3 1				
		計		20	16				
		有効性	当初計画からの具体的効果	目標安全率の達成率	目標の100%以上 90%?100%未満 90%未満	10 5 1	5		
地下水位低下状況			100%以上 80%~100%未満 80%未満	5 3 1	3				
上位計画への貢献度	あきた21総合計画		施策目標の中核事業であり貢献度が高い 施策目標に間接的に貢献する 施策目標とは別のその他関連事業である	5 3 1					5
計			20	13					
効率性	事業の投資効果		費用対効果	B/C=2.0以上 B/C=2.0未満	5 3	5			
	コスト縮減の検討		コスト縮減計画	実施している、または、今後実施する予定 実施していない、または、検討中	5 1			5	
	当初計画との比較	当初計画事業費との増減	減少または微増(10%未満) 増加(10%~30%未満) 激増(30%以上)	10 5 1	10				
	計		20	20					
	熟度	地元との合意形成の状況	地区指定に関する住民意識	指定面積全てで同意している 80%までは同意している 80%未満しか同意を得られない		5 3 1	5		
		地元市町村対応	避難態勢が徹底されている 今後検討する	5 1	5				
地域住民の事業実施の意向		意向が強く要件の同意をクリアしている 意向が強く要件の同意を概ね得ている 要件の同意を得ていない、または、調整中	5 3 1	5					
環境との調和への配慮状況		環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮しているが不十分である 配慮していない、または、検討中				5 3 1	5	
計			20		20				
合計				100	85				

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		